

日本共産党

えんど久子の 県議会報告

私、猿渡（えんど）久子は、生活者の視点で女性の声、みなさんの声を毎回の県議会で届けてきました。今後とも力をあわせてがんばります。



女性の声・生活者の声を届けて

コロナ禍で大変なエッセンシャルワーカーの賃金アップを

2019年に介護事業所にアンケートをお願いし、77%の事業者で介護職員が不足していると回答がありました。関係者と県との意見交換会を持ち、実態を訴えました。

私は、県議会でこの声を紹介し、質の向上のためにも賃金アップと待遇改善をと何度も求め、大分県は「働きやすくやりがいのある介護の職場認証制度」を作りました。

今後とも国の責任で賃金アップをとがんばります。

学童保育の待遇改善のために社労士を派遣

保育所や学童保育で働いた経験を紹介しながら、保育・学童保育の賃金アップと待遇改善を求め、社会保険加入などのため、県は社会保険労務士を派遣する事業を始めました。また、小規模の学童クラブも支援員を2人以上配置できる様に県が加配措置を講じています。



【連絡先】県議会共産党控室
TEL・FAX 097-537-2344
(TELは平日9時～17時)

中学3年まで医療費助成が実現

私は、児童館を作る署名活動に取り組むなど、母親としても市議時代にも子育て支援に力を入れてきました。

県議会でも、子どもの医療費助成制度など子育て支援策の充実をくり返し求めてきました。別府市は医療費助成制度を中学卒業までひろげました。子育て支援策を充実させ、地域活性化につなげましょう。



一般質問でパネルを示して子ども医療費助成制度を求めるえんど久子 [2021.9.17]

男女の賃金格差解消を

現在、県議会議員43人中女性は2人だけです。

大分県議会は、ジェンダーギャップ（男女格差）の解消に向けて大分県に提言しましたが、私はこの議論の場で男女の賃金格差の解消などについて積極的に発言。

議会質問でも、ファミリーシップ制度や賃金アップのための中小業者への支援強化などを訴えてきました。

コロナ禍の窮状を訴えて

別府で無料検査10ヶ所

大分県の保健所は2008年に13ヶ所から9ヶ所(6保健所、3保健部)に減りました。

コロナ感染症の拡大防止のため無料検査や医療・保健所などの拡充を再三にわたり求めてきました。

7月末で、無料検査所は別府駅前の病院など別府市内で10ヶ所、宿泊療養施設は県下で10棟1270室(最大1555人)に増えました。保健所は、臨時的なスタッフ増に加え、保健師含む正規職員18人の定数増など体制を強化して対応しています。

中小業者やタクシー・バスへの支援策実現

中小業者やタクシー運転手のみなさんと一緒に、県に何度も要望し実情を訴え、県独自の事業継続支援金(個人事業主15万円・法人30万円)やバス・タクシー事業者への交付金(タクシー1台当たり10万円など)が実現。

「毎月赤字だ」「きょうも売り上げ最低を更新だ」などの声を紹介し、支援策充実や国保税引き下げを再三求めています。



一般質問で
国保税の引き下げなどを
求めるえんど久子
[2019.7.17]



環境福祉保健生活委員会で
保育園や子ども食堂の
食材費等の支援や
瓶のリユースについて
発言するえんど久子[2022.6]

一人ひとりを大切にする教育のために

生理用品の無償配布や制服の選択制がスタート

多様性を尊重し中高生の制服の選択制など自由度を増すように、生理用品の無償配布、学校のバリアフリー化やトイレの洋式化などを求めてきました。別府翔青高校はズボン又はスカートを選択できるなど、徐々に改善されています。

不登校の子どもが通うフリースクールの利用料は自費です。必要な子どもが通えるように利用料への補助などを求めました。

教員を増やして学校を元気に

教員は多忙で毎年90人ほど病休がありますが、大分県は教員を減らしてきました。県立校は6年間でマイナス153人です。

教職員の定数削減に反対し、教員増員や30人学級などを何度も求めています。共産党以外は教員削減に賛成しています。

みなさんの声で35人学級や支援学級が広がっています。

あらゆる機会に発言

大分県議会では、市議会のように毎回の本会議で一般質問ができません。しかし、私は、常任委員会や特別委員会、本会議での討論・質疑などあらゆる機会を活かし、積極的に質問・発言。

また、本会議での質問の機会を増やすことなど議会活性化を求めています。